啐啄同機

わかまつはら中だより
第２号
令和８年４月３０日
発行者　永井　高穂

令和８年度スローガン「挑み　鍛え　前へ」

上記ＱＲコードより、「若松原(わかまつはら)中学校」ホームページもご覧ください。

4/13（月）交通安全教室

交通安全教室を TV 放送にて行いました。４月１日から改正道路交通法により自転車の新ルールが始まり、危険性が高い違反行為には「青切符」が導入されることとなりました。自転車を利用する生徒も多いことから、早い時期に新しく導入されたルールや交通安全に対する正しい知識，特に道路標識をしっかりと覚えて、より安全に生活できるようにしてください。

ポイント：・歩行者は右側通行　　・自転車は左側通行　　・交差点での一時停止





4/24（金）PTA 総会・授業参観・学級懇談会

4/24（金）は，多数の保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。令和８年度 PTA 総会では，約３０名の参加により、議長の進行のもと、滞りなく終了することができました。また、１・２年生は授業参観を行い、多くの保護者に見守られて、生徒達はいきいきと活動することができました。３年生は保護会を開き，主に修学旅行について説明がありました、生徒による発表もあり、３年生らしく静粛な雰囲気でした。

授業参観












PTA 総会





３学年保護者会

今年の修学旅行は，5/15（金）～5/17（日）と早いため，授業参観ではなく学年保護者会を実施しました。修学旅行実行委員の生徒が，修学旅行の目的や約束事などについて発表しました。






◇思春期の子供たちとの接し方◇

ニュースで毎日のように「中学生」という言葉を耳にします。中学生自身が犯罪を起こしたり，被害にあったりするだけでなく，事件が犯罪を起こした人の中学生の時の家庭環境や育てられ方に起因しているなど，中学生，思春期の子育ては本当に難しいと思います。そこで，思春期の子ども達との接し方について述べたいと思います。

思春期の子供たちに必要なことは、ジリツです。ジリツには、「自律」と「自立」の２つありますが、それらは持続的に何かをやり遂げる力であり、自分と向き合えるようになることです。生徒がしっかりと自分と向き合えるようになることは、自分を理解することです。そのために、普段の様々な関わりの中で、私たち大人は、次のことを教える必要があります。

① 自分には生きる価値がある。
② 人生は自分次第である。
③ 周囲と良い関係を持つために自分を表現する。
④ 自分をコントロールする。
⑤ 意識して自分で選択する。
⑥ 異質な物を受け入れる力をつける。

「中学生になったから・・・，もう中学生だから・・・，自立するんだから・・・。自分のことは自分でしなさい。」子供が中学生になると，早ければ小学生も高学年になると，親としてよく口にする言葉ではないでしょうか。しかしちょっと立ち止まって聞いてください。

そのための生きる力は、学校生活の中の集団生活を通してはもちろんのこと、家庭や地域の中においても、教えるべきことを教えられてのことです。教えるべきことを教え、自分で選択させ、自分で選択したことに責任が伴うことを学ばせる。集団の中で、自分を表現し、コントロールし、異質なものも受け入れる器を作り上げる。そのためには、大人の関わり・教えが不可欠であることを再確認してください。

現在の中学生は，集団生活や家族をはじめとした周囲の人々との様々な関わりが薄いと言われます。だからこそ，経験していないことは一つ一つ経験しながら学んでいく場を作っていきましょう。今，子供たちが苦しくなるのはある意味当たり前です。そこまでの成長をしていないのに，教えてもらっていないのに自分で判断してやりなさいと言われてしまうのですから。

今年も，子どもたちが様々な人と関われる場を多く設定していきますので，関わる私たち大人は時には言葉で，時には背中で教えていきましょう。思春期とは，子どもたちが大きな変化を遂げる時期です。変化をすることが成長となるよう，私たち大人が，関わりの中から変化する子どもたちを支援していきましょう。まさに本校開校以来の「啐啄同機」でいきましょう。